

JRIS

鉄道車両 - ステンレス鋼製ねじ込み式管継手

JRIS R 0141 : 2007

(JARI)

平成 19 年 12 月 12 日 制定

日本鉄道車輛工業会規格審査会 審議

(社団法人 日本鉄道車輛工業会 発行)

著作権法により無断での複製，転載等は禁止されております。

日本鉄道車輛工業会規格審査会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	田 中 眞 一	財団法人 研友社
(委員)	河 合 篤	国土交通省 鉄道局
	宮 本 昌 幸	明星大学
	近 藤 圭一郎	千葉大学
	古 関 隆 章	東京大学 大学院
	岡 本 勲	財団法人 鉄道総合技術研究所
	新 井 静 男	東日本旅客鉄道株式会社
	加 藤 秀 一	東京地下鉄株式会社
	堀 江 富士雄	近畿車輛株式会社
	大 西 利 之	株式会社東芝
	岡 方 義 則	住友金属工業株式会社
	溝 口 正 仁	社団法人 日本鉄道車輛工業会
(顧問)	井 口 雅 一	東京大学 名誉教授
(事務局)	下 村 孝	社団法人 日本鉄道車輛工業会

日本鉄道車輛工業会 基準整備委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	手 塚 和 彦	財団法人 鉄道総合技術研究所
(委員)	佐 藤 公 一	川崎重工業株式会社
	山 口 隆	日本車輛製造株式会社
	河 口 清	近畿車輛株式会社
	川 端 俊 夫	東急車輛製造株式会社
	尾 藤 千 秋	新潟トランス株式会社
	持 留 裕 之	三菱重工業株式会社
	和 嶋 武 典	株式会社日立製作所
	石 橋 尚 之	株式会社東芝
	塩 見 省 吾	三菱電機株式会社
	尾 崎 覚	富士電機システムズ株式会社
	細 田 芳 男	東洋電機製造株式会社
	岡 方 義 則	住友金属工業株式会社
	藤 原 達 雄	ナプテスコ株式会社
	新 井 衛	日本信号株式会社
	島 添 敏 之	株式会社京三製作所
(顧問)	田 中 眞 一	財団法人 研友社
	佐 藤 芳 彦	社団法人 海外鉄道技術協力協会
(鉄車工委員)	溝 口 正 仁	社団法人 日本鉄道車輛工業会
	下 村 孝	社団法人 日本鉄道車輛工業会
	宗 像 政 美	社団法人 日本鉄道車輛工業会
	川 平 吉 郎	社団法人 日本鉄道車輛工業会

制 定 : 社団法人 日本鉄道車輛工業会 会長

掲 示 : 鉄道車両工業 ; 工業会のホームページ : URL ; <http://www.tetsushako.or.jp>

発 行 者 : 社団法人 日本鉄道車輛工業会

(〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-2 NTT-TEL ; 03-3257-1901 NTT-FAX ; 03-3257-3200

審 査 : 日本鉄道車輛工業会規格審査会

作成委員会 : 当工業会基準整備委員会

この規格についての意見又は質問は、当工業会にお願いします。

なお、この規格は、原則として5年を経過する日までに確認、改正又は廃止されます。

(2)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

目 次

	ページ
1 適用範囲.....	1
2 引用規格.....	1
3 材料.....	1
4 管用テーパねじ.....	1
5 種類及び記号.....	1
6 呼び方.....	2
7 寸法.....	2

まえがき

この規格は、前身となるRIS 141が1988の制定以来見直しを行っていなかったため、JRIS制定に当たり、製造実態に合わせた見直しの後“日本鉄道車輛工業会規格(以下、鉄車工規格という。)の制定に関する規程”の規定に則り“鉄車工規格審査会”の審議を経て、日本鉄道車輛工業会会長が制定したものである。

この規格は、著作権法によって保護される著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。会長及び鉄車工規格審査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願にかかわる確認について、責任はもたない。

JRIS “R シリーズ” 制定の背景

2002(平成14)年まで作成・整備してきた“鉄車工標準：RIS”は、1969(昭和44)年代の車両構造の多様化の中で、車両部品の汎用品化(共通使用)、市販品の車両部品への活用などを可能にする活動の一環として、価値分析の手法の活用及びそれぞれの分野のノウハウを取り入れながら、製品仕様、設計標準、作業標準などを標準として定めてきた。近年、JISは国際規格との整合化の方針に沿って性能規定化に移行しつつあるが、RISは鉄道車両業界で必要とする事項を規格として定めているため、従来のRISの制定方針に沿う標準と新しいJISの考え方に沿う標準との複数で構成されている。

今後、我が国の進んだ技術をベースにした団体規格が、国内のみならず国外でも活用できるようにするために、2003(平成15)年1月に鉄車工規格の作成・登録を公正にするための手順を定めた。この目的に沿うように、既存の“鉄車工標準：RIS”は、順次“鉄車工規格：JRISのRシリーズ”への改組と必要な見直しを行って原案をまとめ、あらためて鉄車工審査会の承認を経て制定・登録する作業がスタートした。

改組して新規に登録する規格の番号は、従来との関連がわかるように、前身のRISの番号の前に零(0)を加えて四桁の番号で構成する。

なお、2003年以降新規作成・登録する“Rシリーズ”の規格は、1001番からの追い番号で登録する。

JRISは、関係する技術分野に応じて四つに区分した体系で構成していて、この規格の“Rシリーズ”のほか、“D”、“E”、“J”シリーズがある。

鉄道車両—ステンレス鋼製ねじ込み式管継手

Rolling stock—Screwed type pipefittings of corrosion-resistant cast steel

1 適用範囲

この規格は、鉄道車両に用いる空気、水、油、蒸気などの低圧配管に用いるステンレス鋼製ねじ込み式管継手（以下、“継手”という。）について規定する。ただし、最高使用圧力は、980 kPaとする。

2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS B 0203 管用テーパねじ

JIS G 3459 配管用ステンレス鋼管

JIS G 4303 ステンレス鋼棒

JIS G 5121 ステンレス鋼鑄鋼品

規格概要につき以下は省略する。